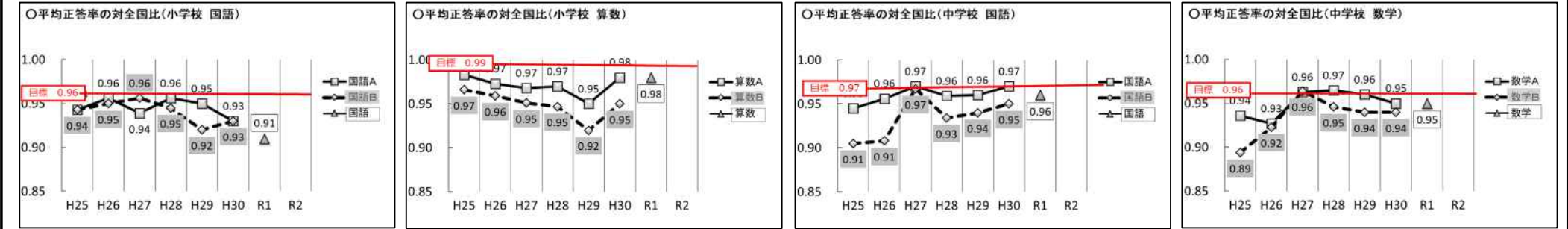


目標2 心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上

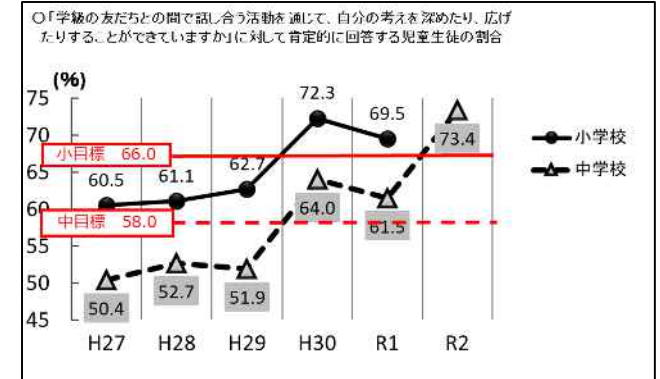
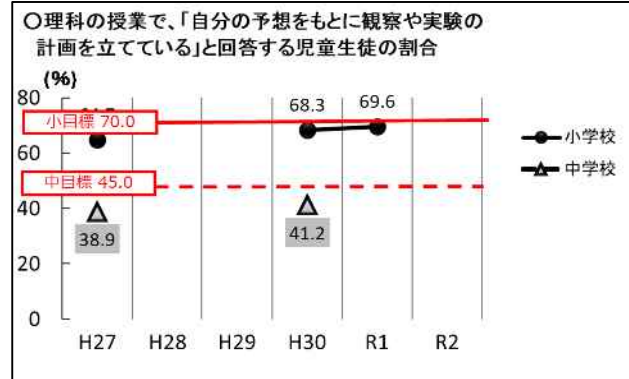
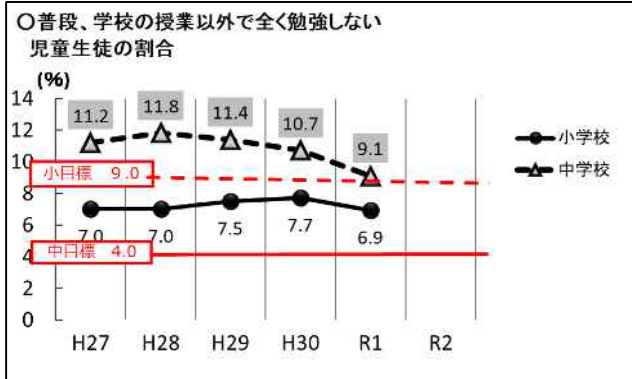
施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組

取組概要	成果指標	
<p>強化した幼児期の学びを義務教育以降の学力の向上につなげ、義務教育修了までには社会で生き抜くために必要となる基礎的な知識や力の習得をめざす。</p> <p>具体的には児童生徒が主体的・協働的に学ぶ授業の実現、論理的思考能力をつけるうえで大きな役割を果たす理数教育の充実などに取り組んでいくとともに、各学校の学力向上の取組が、客観的に行われる検証、評価により見える化された学校や子ども一人ひとりの状況に応じた効果的な取組となるよう、児童生徒の状況を客観的・経年的に把握できるシステムを構築し、それらに基づく継続した指導、個に応じた支援を充実させていく。</p>	指 標	目 標 値 (令和3(2021)年度末)
	平均正答率の対全国比  【全国学力・学習状況調査】	小:国0.96 算0.99 中:国0.97 数0.96
	普段、学校の授業以外で全く勉強しない児童生徒の割合  【全国学力・学習状況調査】	小:4.0% 中:9.0%
	理科の授業で、「自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている」と回答する児童生徒の割合  【全国学力・学習状況調査】【小学校学力経年調査】【中学校チャレンジテスト】	小:70.0% 中:45.0%
	「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合  【全国学力・学習状況調査】	小:66.0% 中:58.0%

成果・評価



## 成果・評価



学力向上の取り組みの結果、全国学力・学習状況調査において経年的に全国平均との差が縮小しているものの、依然として厳しい状況となっている。「普段、学校の授業以外で全く勉強しない児童生徒の割合」は、中学校については改善が見られ、めざす目標の達成が見込まれるが、小学校については横ばい状態にある。

理科の授業で、「自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている」と回答する児童生徒の割合については、小学校については前年度より改善が見られ、めざす目標の達成が見込まれる。中学校については未測定であるが、目指す目標の達成に向け、取組は順調に進捗している。「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合は、小・中学校いずれもめざす目標の水準に達しており、順調に推移している。

平成28年度より、学力経年調査を実施し、調査結果を学校における授業改善や児童一人一人に応じたきめ細かな指導の充実等に活用している。一人一人の児童生徒の学習状況や生活状況等を客観的に把握し、ICTを活用した個別最適な学びや、他者との協働的な学びを推進し、学力向上を図っていく。